第562号

学校だより　12月末号

横浜市立東本郷小学校
令和5年12月21日

人にやさしくありがとうの心で　がんばるがんばる最後まで　本気で取り組むひがほんの子

人にやさしく

学校長　堂腰　康博

12月の寒い朝のことです。開門して５分ほど経った頃、正門からすぐのコミュニティハウスの壁に１年生の女の子がぽつんと一人でいます。ランドセルはどこかに置いてきたのでしょうか、体ひとつで下を向いたまま固まっています。しばらくするとクラスの仲良しさんたちが駆け付け６年生らとともに、昇降口が開くまでその子に寄り添い声をかけていました。でも、そこでそうしている理由がわからなかったようで、クラスの仲良しさんたちは門で登校の見守りをしているわたしのところにやって来ました。「どうしたの？って聞いてもぜんぜん教えてくれないの…。」「大丈夫？って言ったら、泣いちゃったの…。」わたしは、関わってくれたみんなにお礼を言い、あとは任せてもらうことにして、それぞれ教室に向かうよう促しました。一人になった彼女は、時々顔を上げて、ちらっと見てきますが、わたしと目が合うとすぐにうつむいてしまいました。心の声は「早くこっちに来て！」と言っているように聞こえました…。（待ってて、今行くからね！）

みんなが登校できたタイミングを見計らって門を閉じようとしたところ、6年生の女子が駆け込んできました。遅刻しないようその勢いのまま昇降口へと走っていたのですが、壁に張り付きうつむいている１年生が目に入ったのか、くるっと踵を返して彼女のもとに駆け寄ったのです。そして膝を折って目線を合わせ、泣いている気持ちをそっと受け止めているのでした。あまりにも自然な流れに胸が打たれました。自分のことを後回しにして、放っておけない、困っている人を助けなくちゃ、とっさの行動をする6年生のやさしい気持ちに感激しました。話かけた言葉は「どうしたの？」「大丈夫？」みたいな、これまでと変わらないものだったでしょう。それでも、女の子の表情が変わったのは、自分のことを大切に思ってくれたことや、泣かずにはいられない気持ちをわかってもらえたことがうれしかったのだと思います。

助けてくれた6年生を教室へと促し、ようやくわたしが話す番がきました。女の子はゆっくり理由を教えてくれました。すごくたくさんあったからだから言えなかったことも分かりました。寒かったから体を温めようと鬼ごっこをしたとたん転んでしまったこと、恥ずかしかったこと、痛かったこと、お気に入りのズボンが泥で汚れてしまったこと、ママに叱られるかもしれないと思ったこと、一日汚れたズボンでいたら友だちに何か言われるだろうと思ったこと、いろいろでした。『大ピンチ図鑑』のピンチレベルでいえば、つらい・ふあん・はずかしい・きもちわるい・イライラ度みんなマックスに近かったことも分かりました。暖かい保健室で少し休んで、きれいなスエットに着替え（いざという時のために用意しています）、元気を取り戻して教室に戻ることができました。

歩きながら、6年生のお姉さんが自分のためにしてくれたことを「気持ちが温かくなったよ。」と妙に大人っぽい言い方で教えてくれました。後日わたしの感動とそのセリフをそのまま6年生に伝えると「そんなことを言ってくれたんだ。」と笑いながら受け止めてくれました。あなたは優しさで憧れられているんだよ、わたしは心の中でそんな言葉をかけました。
2023年の終わりにあたりまして、子どもたち、保護者のみなさま、地域のみなさまのご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。
どうぞ、よいお年をお迎えください。

ピンチを乗り越え、校長室で寛ぐ１年生